

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム 静園		
所在地	長崎県南島原市口之津町乙3476番地		
自己評価作成日	平成 30年 6月 18日	評価結果市町村受理日	平成30年 10月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 30年 8月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、入居者が安心してゆっくりと生活できる様な環境の中で支援を行っている。同法人には保育園があるために、子供達の定期的な慰問や敬老会での交流があり、入居者と一緒に歌や踊りを楽しんでいただいている。季節感のあるレクリエーションの企画を行い、花見や運動会、餅つき大会などの積極的な活動を行っている。スタッフのスキル向上のために独自の勉強会や、資格習得のための支援を事業所として行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天草湾に面する高台の麓に位置するホームは、眼下にひろがる海の景色と木々の色づきを肌で感じられる自然豊かな環境にあります。母体が運営する保育園との交流のほか、地域と接する機会も多く、園児や地域ボランティアが年に数回訪れ、季節行事やお菓子作りを楽しんでいます。昨年より施設長と管理者の交代があり、新体制での業務が開始されました。現在、介護職員が不足している現状にありますが、管理者は、職員がストレスなく楽しく働けるよう職員が何でも言い合える関係づくりや職員が働きやすい環境づくりに努めています。また、今年には家具の配置や床面の貼り替え等、車いすを使用する入居者も安全にゆったりと移動できるような共用空間の整備にも取り組みました。地元で採れたジャガイモで入居者自らコロケを調理し、また行事を通じて地元めぐりを行うなど、できるだけ入居後も移り住む前の暮らしが継続できるよう支援に努めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 静園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしく、お一人おひとりを尊重した支援を心掛け、職員間で共有しながら支援に努めている。	ホームの理念を明示し、毎月その時に応じたスローガンを掲げ、理念を具現化しながら実践に繋がっています。職員によって価値観のばらつき課題もありますが、定期的に関われる職員会議や毎日のミーティングの中で振り返りの機会を持ち、入居者が自分らしく、笑顔で過ごせるよう、家族と共に支援する姿勢で日々取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	ホームは地域住民として自治会に加入し、隣近所と顔が見える関係づくりに努めています。法人内に保育園があることから年間を通して交流の機会が多く、地元のボランティアとは一緒にお菓子作りを楽しむなど地域と接点を持ちながら、入居後も地域と繋がりが継続できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格を持った専門員もいて、勉強会や話し合いを通じて施設内での意識向上には繋がっている。しかしながら地域に向けた活動までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、日常の支援や取り組みについても外部の方の意見を聴くことによって、職員間の意識向上にも繋がりが、サービスの質の向上に活かされている。	定期的に関われる運営推進会議には、民生委員や自治会長の出席があり、行事等の写真を示しながら入居者の暮らしぶりや運営状況を伝えていきます。今年度は会議で身体拘束の勉強の機会を持ち、ホームの現状の理解に繋がりました。実地指導や事故報告などホームの取り組みや方針を伝え、情報交換の機会としても活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター等には入居空き情報なども伝え、相談などあるときは密に連絡を取りながら協力体制を築けている。	施設長は、市の担当職員や介護保険担当者と報告や情報交換を行いながら協力関係の構築に努めています。施設長会議に出席した際には制度の理解や困難事例を検討し、また、運営に関する情報交換や空き状況の問い合わせなど、他職種と関わりを持ちながら共に課題解決に向けて取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、今現在行ってはいない。その都度、話し合いの場を設け、勉強会等も行っている。	ホームは、「身体拘束をしない」方針で入居者と関わりを持ち、入居者の言動を把握しながらその方に応じた対応に努めています。日中、玄関の施錠はなく、入居者は敷地内を自由に出入りできる環境にあります。職員は、生活歴や家族の情報から行動の理由を共通認識し、家族の理解を得ながら対応方法話し合い、その方の自由な暮らしの実現に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議等でも、職員間で支援についてストレスをためないように話し合いを行いながら、虐待用心として意識するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい内容までは理解できてはいないが、勉強会等で学ぶ機会もあり、利用者の活用については施設長や管理者が関連機関と話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、施設長か管理者が十分説明を行い、分かる範囲であれば職員でも対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、コミュニケーションを図り、一ヶ月に1回はお手紙にて情報をお伝えする中で要望などにも応える機会を設け、運営にも反映されている。	毎月発送されるホーム便りでは、担当職員が写真と共に受診状況や日頃の暮らしぶりを伝え、家族との信頼関係づくりに努めています。便りには行事予定を示し、家族も行事に参加しやすいよう配慮されています。面会時には家族に積極的に声をかけ、支援の方向を確認しながら、入居者を共に支える姿勢で取り組んでいます。	入居者や家族との関係性を深める働きかけがなされている一方で、職員の入退職の周知不足や、面会頻度の少ない遠方の家族については現状の把握がしやすい状況とは言い難い様子が窺えます。推進会議への参加の呼びかけや、便りの工夫等、家族との距離を更に縮める取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議の中に於いて、意見を聴く機会を設けている。又、個別には、管理者や副管理者が意見などを聴き、施設長などに対応を話し合っている。	管理者は、日頃の業務の中で互いに何でも話せる環境作りに努め、職員の気づきや提案は積極的に運営に取り入れるように努めています。職員間の連携を図りながら、ストレスを抱えず楽しく働けるよう配慮し、外部研修や勉強会を通して職員の介護力を高め、スキルアップにも繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や賞与がある。研修会等の参加を勧めて下さる。しかし給与賃金については一般に介護職の水準が低いので気持ちが落ちるときがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や、実務経験年数に応じた研修会等に参加させて頂いている。また、職員が分かるように掲示板に研修会の案内について貼り出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しながら発表の機会などもある。しかしながら、職員間の交流までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等を知るために、入居時はなんでもシートを利用し、家族にもお尋ねしながら、本人が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心でき、利用者を任せられるように話し合いを重ねている。職員間で情報を共有しながら、家族の訪問時にはコミュニケーションを図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や、生きてこられた人生を大切に考え、本人ができることを見極めながら、ケアプランに添って対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを理解し、お一人おひとりに合わせた支援を考え、共同生活の中で、職員も人生の先輩として学ぶ姿勢を忘れずに支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のご家族と利用者だけの時間を心掛け、お手紙にて日頃のご様子を知らせ、関係が途切れない支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理容室など、本人が行ける限りは、今まで馴染みのある場所へお連れするように努めている。	ホームは、面会や外出・外泊に制限なく対応しており、家族や友人がホームに訪れやすい雰囲気作りに努めています。本人が希望する際は帰省や買い物に同行し、また、家族行事での外出の際には、できる範囲で協力する姿勢で関わり、外出先での不安に寄り添いながら繋がりが継続できるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まれるホールに、利用者同士が自然と集まり、ゆっくりとお話をされる機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、ご家族とお会いする機会も殆ど無くなる。施設長はお参り等でご家族とお会いされた内容などを、時々伝えて下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり出来る部分はして頂き、困難な場合は、本人が負担と感じない程度に声かけ等を行い、会議等でも話し合いを行い検討を行っている。	意思の伝達が困難な入居者には、表情や仕草で思いを汲み取り、できるだけ選択肢を示しながら、入居者の希望の把握に努めています。入居者の言動から暮らし方の希望を受け止め、日課や過ごし方など職員間で共通認識しながらその方に添った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの情報シートを作成し、職員間で共有しながら、個々の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、普段と違う場合は職員間で話し合い、常に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより評価を行い、担当者を含め、意見交換を行い、ケアプランに反映されている。家族の思いや、医療機関の意見なども反映されている。	介護計画立案前には、担当者が職員より意見を集約し、家族の意向を確認しながら現状に添った支援計画が立てられています。意思の伝達が可能な入居者には計画の内容を説明し、援助内容の理解が図られています。支援内容は定期的に評価しながら、その時の状態に応じた内容となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚の記録用紙に工夫されている為、職員間でも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに添いながらも、日々の利用者の状態に応じて、柔軟な支援が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しつつ、毎日の生活を安全に楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて、往診などの対応も行っている。医療機関とは、看護師等が連絡を図りながら支援に努めている。	医療連携の看護師より、週1回、必要な看護支援や助言を受け、また、かかりつけ医にも相談しながら体調の変化に迅速に対応できるよう努めています。入居者が入院した際には、連携室職員と情報交換を行い、退院後の体制を整えながら、できるだけ早期に退院できるよう取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、報告を行いながら指示を仰ぎ、病院受診等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な受診等で病院と連携を図っている。入院時には、医師と相談しながら早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、施設における重度化や終末期に向けた説明を行い同意を頂いている。現在看取りは行っていない。	ホームは、職員体制の都合上、現在看取りが困難な状況にありますが、これまでも看取りの経験があるため、生活環境を整えながら、食事を受け入れることができるぎりぎりのところまで支援に努めています。施設長は、入居者が重度化した際には他職種と連携を図り、その方の状態に応じた次の住まいに繋げ、本人や家族の思いに寄り添い支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。ホームにて消防署立会いの講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に4回の避難訓練を行っている。火災だけではなく地震などの災害についても避難態勢を強化している。地域の自治会に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家が無く、高齢の方が多いため協力を得がたいのが現状である。	昨年施設長、管理者の交代に伴い、昨年度、今年度と避難訓練の実施回数を増やし、職員各々が有事の際に迅速に対応できるよう手順や行動の意識付けをし、取り組んでいます。自然災害に対しては、ハザードマップを確認後、立地条件から考えうる災害を職員間で把握し、訓練に繋げています。	今回、運営推進会議において自然災害時の一時避難場所を周知し、有事の際のホームの対応の理解に努めました。ただし、備蓄品については更に必要物品の追加の必要があり、今後の備えを施設長も課題と捉えています。現在、風水害訓練については地震時の対応を口頭で確認するに留まっているため、今後様々な状況に対応できる実効性の高い訓練の実施が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを頭に置き、言葉かけを行い、個々の尊厳を大切に考えた対応を行っている。	入居者のこれまでの生き方を尊重し、尊厳を傷つけないケアの実践に取り組んでいます。入居者に対して返答しやすい言葉かけを行い、身近な存在として関わりながらも、常に人生の先輩と意識し対応しています。入居者や職員の言葉が強い口調へと変化した際には、職員が交代し、入居者の誇りを傷つけないよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が落ち着ける環境を整えながら、自己決定できるような声掛けを心掛けて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時や食事時間などは、希望に添って行っているとは言い難い。しかし、一人ひとりのペースでや希望を汲み取りながらの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のみではなく、普段より整髪や髭剃りなどの身だしなみ等には気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなどにも役割を持って頂き、晩酌などを楽しまれる方もおられ、楽しい雰囲気作りに努めている。	入居者は、できる範囲の手伝いで調理に参加し、役割を担いながら食事を楽しんでいます。その時々で採れる野菜や季節の献立を取り入れながら、入居者が食材から季節感を感じることができるよう配慮されています。入居者の意見が献立に取り入れられることも多く、生活習慣から晩酌を楽しむ入居者もあり、柔軟な対応がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理を心掛け申し送り等で、職員間で情報を共有し、本人の状態に合わせた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。1人で困難な方は職員付添い、介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導を行い自立に向けた支援に努めている。	居室毎にトイレの設置があり、職員はそれぞれの排泄パターンに合わせ失敗しないケアに取り組んでいます。排泄が自立した入居者には、できるだけ自力で行うよう見守り・声かけをし、入居者それぞれが発するサインを職員間で共有することにより、トイレでの排泄に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄介助に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯を利用者に合わせるなど、入浴を楽しむ支援までは行えていないのが現状である。	入居者の希望に応じ、本人の意向を確認しながら無理強いないよう努めています。入浴の手順やお湯の温度など入居者それぞれの意向に添って対応し、入居者の身体状況に応じた介助の方法を検討しながら、その方が安心して入浴できるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠時間や生活リズムの把握に努め、夜間帯に、快適に安眠できるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会なども行い、薬がもたらす副作用などについても理解を深めている。薬の投薬についてはチェック体制を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕方にお酒を飲まれる方や、ココアやコーヒーなど個々の好みや時間で楽しまれ気分転換は出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に添えるように出来る限りの支援に努めている。	日常的に、ホーム玄関先で海を眺めながら外気浴を楽しみ、入居者は行事での外出の他にも気軽に外気に触れる環境にあります。春先には海に向かって大声大会を楽しみ、賑やかな時間を過ごしました。家族との外出も制限はなく、行事の中で季節ごとに地域をめぐり、見慣れた風景に触れながら気分転換が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事務所にて管理しているが、数名の方は家族了解の基に、ご自分で持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に代わり、毎月のお便りにて、日頃の生活状況を伝えたり、お正月の年賀状を作成するなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体を通して、くつろげる環境に考慮し、時には季節を感じて頂けるような花や物を置くようにしている。	今年度は床材の老朽化に伴い、明るい色彩の床材に張り替え、また、車いすや歩行者が移動しやすいよう家具の配置を検討し、清潔感と安全性を備えた寛げる空間作りに繋がりました。壁面には行事ごとに写真が飾られており、入居者が行事を楽しむ様子が窺えます。和室には仏壇が供えられ、入居者によっては仏壇に手を合わせる習慣を継続でき、心の拠り所として大切にされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールにソファや椅子を置き、利用者同士が話しやすい工夫をしたり、畳の部屋でも寝て頂けるような場所も整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス以外は、使い慣れた馴染みの物を使用して頂き、お仏壇や姿見なども置かれている利用者もおられ、本人が居心地の良い空間となっている。	居室には、入居者が使い慣れた小物入れや手回り品の持ち込みがあり、家族と相談しながら入居者本人の動線に合わせた家具の配置となっています。本人の手の届く範囲に手回り品が備え付けられ、できる範囲で自力で身の回りのことができるよう配慮されています。畳の習慣がある入居者には畳を使用し、入居後も環境の変化に不安なく、安心してくつろげるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであり、手すりや個人用のトイレもあり、快適に安全で自立した生活が送れるように配慮されている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 静雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見えやすい場所に提示してあり、理念について話し合う機会もあり、職員の共通した指標となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方が、定期的に参加されたり、地域の一員として地区活動のお手伝いなども行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園内では認知症の方を理解するための勉強会等も行っているが、地域の方に向けた活動までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などは、全体会議等で職員間にも伝えられ、サービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや、介護事業所とも密に連絡を図りながら、研修会等も計画されるなど協力関係は築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、周知徹底されている。声かけなどについても職員同士で心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、周知徹底されている。声かけなどについても職員同士で心掛けを行い、虐待になっていないか確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については勉強会等も行い、市町機関と連携を図りながら活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者がご家族の契約の際には十分説明を行っている。また、ご家族が不安に思うことなどについては各受け持ちや担当者や副管理者なども対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を入れ、意見等を聞く機会を設けている。また、利用者に対して各担当者を決め、細かい意見も言いやすい環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議等で職員の意見や要望などを聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を設けたり、資格等を目指すものに対しては、施設より研修会の参加を呼びかけ、向上心を持って仕事ができる環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内にて、職員が研修担当となり独自の勉強会を行う機会を設けている。管理者研修や3年以上経つ職員には、実践者研修への参加ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会における研修会や、風船バレー大会などのネットワーク作りを行っているが、職員間の交流とまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスに利用者も参加して頂き、直接本人からも日常の不安や希望を聞き機会を設け、日常の支援等に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に於いては、施設長や管理者が家族や関連機関からの情報などを聞き、利用者が望まれる支援や家族の不安等に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用される前に、できる限り本人とご家族には来園して頂くように努め、直接見て雰囲気などを感じて頂いたうえで、話を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜皮むきや洗濯物たたみなど、入居者の体調に合わせ、共に生活を送るものとして単調な生活にならないように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族の手紙において、利用者の日頃の様子などをお伝えし、来園時には、お部屋やホールにて、ゆっくりお話しできるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	理容室や病院などは、本人が今まで通われていた馴染みの場所や機関にお連れするように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮した席の配置や、一人の方が孤立されないように配慮した声かけ等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、入居されていたご家族が野菜や花を持ってきてくださったり、運営推進会議のメンバーとして現在も協力して下さるなど馴染みの関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一方的なこちらの思考にならないように、利用者の何気ない日常での会話などにも耳を傾け、本人の希望や思いを把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活の記録をまとめてあり、ケアプランの中にも、短期目標が職員に意識できるよう配慮されている。又、話し合いの時には、それらを利用しながら話し合いが行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や、申し送りノートなどを活用しながら、利用者の日々の対応に活かしている。また、利用者の急な変化に対しては特記事項などに記載し、職員全員で対応できるように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議やカンファレンス等で話し合いを行い、意見などを反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録を個人で記載し、食事量なども細かく記録を残しながら、職員間で共有し、日々の介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランのみにとらわれず、日常の中に於いて、利用者の体調に合わせ、本人に意向を聴きながら対応ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関と連携を図りながら、本人が生きる意欲が持てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が望まれる場合は、医療機関と連携を図りながら速やかに受診できるように支援を行っている。又、利用者の体調の変化時、受診を行った場合は結果等を必ずご家族にお伝えしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化については、バイタル測定などで職員間で共有し、急な変化があれば看護師へ報告し病院受診や往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を図りながら、利用者の状態に応じた対応を話し合い、ご家族とも相談しながら早期、回復に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の説明を行い同意を頂いている。利用者の状態に応じてその都度説明を行っている。現在看取りは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。又、ホームにて消防署立会いの講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に4回の消防訓練を行い、火災だけではなく地震などの災害についても避難態勢を強化している。地域の自治会に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家が無く、高齢の方が多いため協力は得がたいのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、お一人おひとりの人格に配慮した声かけに努めている。利用者同士の言い合いなどになった場合は、職員が間に入り、お互いが気分を損ねないように声掛け等もやっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聴き、ケアプランに反映させている。日常の中に於いて、利用者の体調に合わせた声掛けを行いながら、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間やレクリエーションの時間などは、施設の都合に合わせてしまうことがある。利用者の希望に添えているのかと考えると難しい時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、行事の時などは女性の方は化粧をしたり身だしなみには気配りをしている。起床時には、髪の毛を整え、寝間着から着替えるなど身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の簡単な皮むきや、配膳を手伝っていたり、利用者が役割を持ちながら、食事を楽しめるように、季節の花を飾るなど工夫もやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理に心掛け、お一人お一人に合った支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。1人で困難な方は職員が付き添い、介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導等を行い自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの状態に応じて、医療機関と連携を図り、看護師と相談しながら、水分量や薬を調整して予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入る順番などには配慮をしているが、入浴時間帯については個々に応じた対応はできず、施設の都合に合わせているのが現状である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や季節に応じた温度調節や、照明の調整、声掛けの配慮等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会を行うなど、薬の利用者に与える影響を職員は十分理解し、誤薬が起こらないようにチェック体制も強化して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な毎日にならないように心掛けながら、利用者の体調に合わせた支援が行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じたレクリエーションを企画したり、利用者に応じた外出の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、家族と相談した上で、本人がお金を所持している方もおられる。普段は、事務所金庫にて預かり、利用者の希望によって買い物等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいといわれる場合は、好きな時間に何時でも掛けることが可能である。又、個人で携帯電話を所有されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションの時の写真を掲示しながら季節感を共有し、楽しむように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに畳の場所があり、そこで昼間に横になれる方もおられる。季節の花を飾り、訪問された方が、何時でもゆっくり話せるように椅子なども用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの椅子や、家族の写真などを置き、本人が自宅にいた時のような居心地の良い環境になれるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に安心して移動できる空間を心掛け、居室が分かるように、目の高さに御本人の名前を掲示するなどの工夫も行っている。		